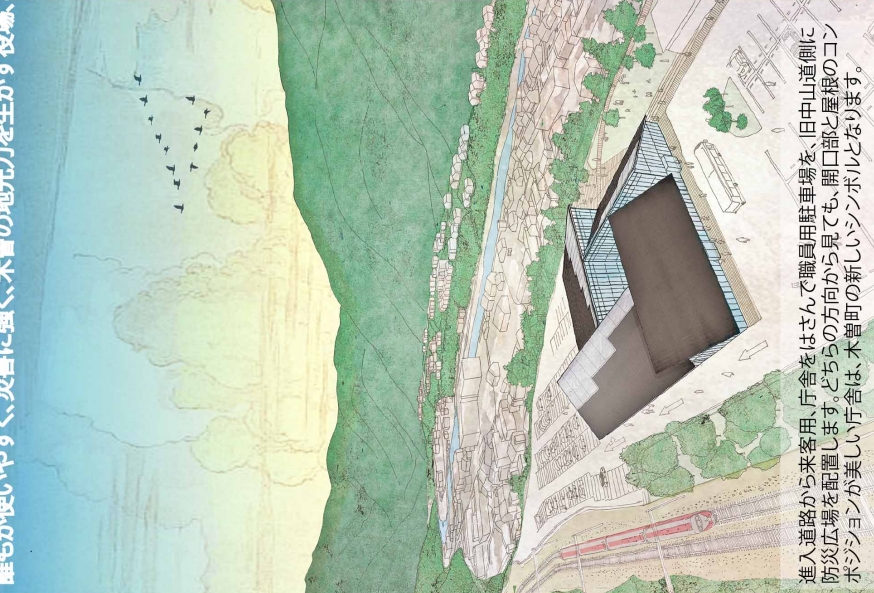


木曽力を集め束ねる!

一 支えあう大屋根がつくりだす円環型役場—
誰もが使いやすい、災害に強く、木曽の地元力を生かす役場、再生可能エネルギーを活用し、ひとびとが楽しい、学びあう、「開かれた」役場を提案します。



進入道路から来客用、庁舎をはさんで職員用駐車場を、旧中山道側に防災広場を配置します。どちらの方向から見ても、開口部と屋根のコンポジションが美しい庁舎は、木曽町の新しいシンボルとなります。

01 明確な配置によるランドスケープ

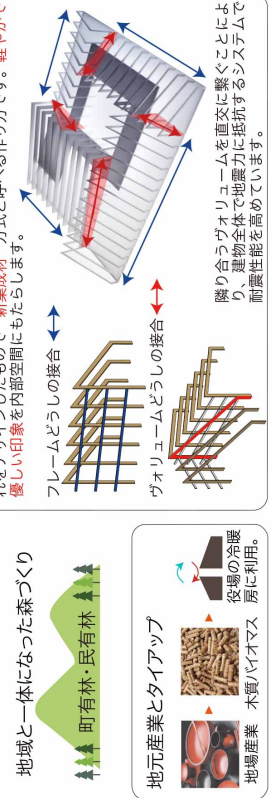
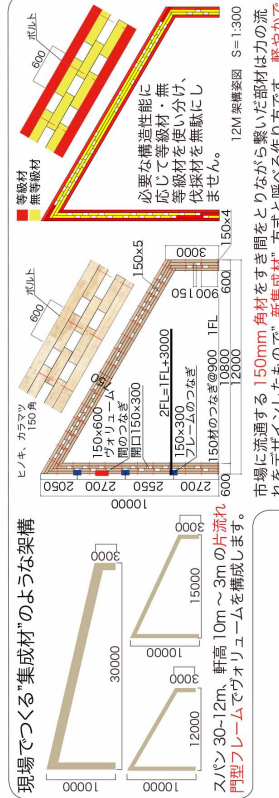
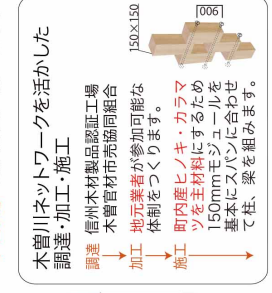
庁舎を敷地中央にコンパクトにまとめ、来客用駐車場、庁舎、職員用駐車場、防災広場、防犯カメラ、既存会議棟の5つのゾーンを明確に分けることで、来行者のアクセス、災害時の迅速な対応を可能にします。



庁舎の周囲に回廊を設け、出入時のバリアフリーに配慮するとともに、緊急時はどこでも車面が響りつけようように設定し、防災センター・防災本部としての機能性を高めます。
防災広場は木曽川や町を尻下るす西側に設けることで、災害時の町の様子を把握しやすくと共に、災害時には、防災広場と面駐車場を一体的に開放し、避難場所として利用します。普段は、防災広場、中庭・ウッドデッキの半屋外空間、回廊など、屋内外を一体化させ、様々なイベントに対応します。

02 地元力を生かす新しい木造建築

「木の国・木曽」のポテンシャルを最大限に生かし、地元力を結集させた木造建築を提案します。200mm以下の小径材を主流とし、片流れの門型フレームが原型に束ねられた構造は、来行者をスムーズに誘導する内部空間を実現します。また特殊な加工がなく、工期短縮に有効です。地元のカワラケヤキ材を使った外装および内装材、漆器類など地元産品と連携した廃材のバイオマス利用など、「木曽力」を多方面に使います。



地域と一体になった森づくり
町有林・民有林
地元産業とタイアップ
地元産業 木質バイオマス
役場の冷暖房に利用。

おおらかな片流れのヴォリュームを円型に束ねることで、内部が一周できる円環型の役場を提案します。フランストップでサービスが受けられる窓口、会議室、保健センターが並び、誰もが使いやすい町役場です。

03 木曽力を活かす新しい木造建築

市場に流通する150mm角材をすき間をとりながら繋いだ部材は力の流れをデザインしたもので「新集成材」方式と呼べる作り方です。継ぎ目だけで美しい印象を内部空間にもたらしません。

